

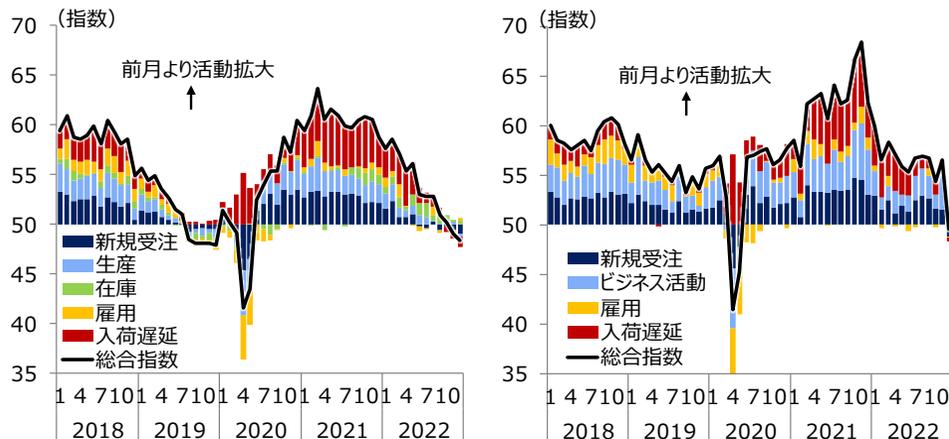
米国

ISM景況指数（2022年12月）

製造業に続き、景気下支え役が期待される非製造業でも50割れに

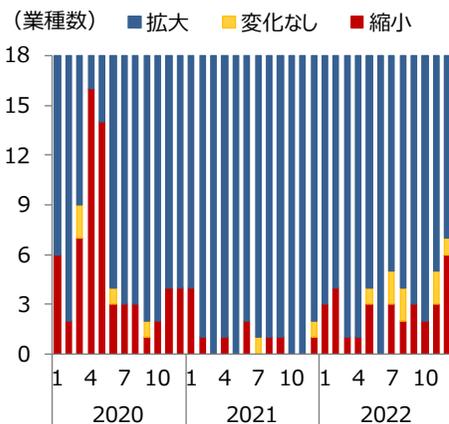
政策・経済センター
田中高大
03-6858-2717

1 ISM景況指数（左：製造業、右：非製造業）



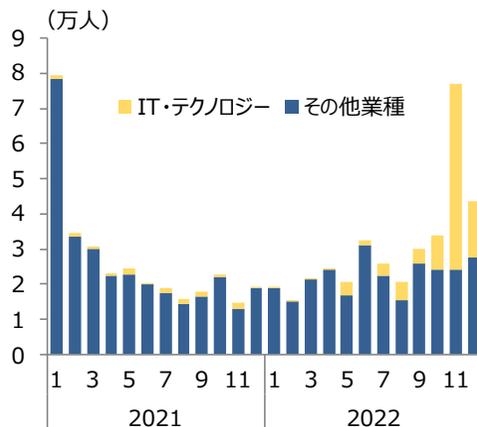
注：調査項目について、前月と比べ「改善・変化なし・悪化」の3択で行った企業アンケート結果を加重平均して算出。
出所：Institute for Supply Management®より三菱総合研究所作成

2 非製造業の業種別活動



注：前月からの企業活動の変化を示す。
出所：Institute for Supply Management®より三菱総合研究所作成

3 企業の人員削減数



出所：チャレンジャー・グレイ&クリスマスより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 22年12月のISM製造業景況指数は48.4と4カ月連続で低下し、経済活動の拡大・縮小の境目である50を2カ月連続で下回った。また、非製造業は49.6と前月から約7ptの大幅下落となり、20年5月以来初めて50を下回った。
- 製造業の項目別では、新規受注・生産・入荷遅延が前月から低下し、50を下回る一方で、雇用・在庫は前月から上昇し、雇用は50を再び上回った。サブ項目の仕入れ価格は20年4月以来の低水準となりインフレ圧力緩和を示した。
- 非製造業の項目別では、全ての項目で前月から低下。特に、ビジネス活動が前月差▲10ptの大幅下落となったほか、新規受注や雇用、入荷遅延は50を下回った。業種別では、11業種で拡大を報告した一方、6業種（不動産、卸売、その他サービス、情報通信、建設、教育）が縮小となった（図表2）。

基調判断と今後の流れ

- 米国の企業活動は、12月に製造業・非製造業ともに縮小した。非製造業の市場予想は55.1と、高水準を維持して景気を下支えすることが期待されていたが、製造業に続いて非製造業も縮小に転じたことはネガティブサプライズとなった。
- 12月下旬の記録的な大寒波によって経済活動が停滞したことも一因として指摘されており、非製造業が基調として縮小しているかは来月以降の結果も合わせて見る必要がある。ただし、利上げの影響を大きく受けている不動産や建設などを中心に、全体として減速傾向にあることから、来月以降も大幅な好転は見込み難い。
- 先行きの注目点は雇用・賃金動向だ。一部のIT企業を中心に大規模な人員削減が行われているが（図表3）、他の業種では人手不足を訴える声は依然として多く、二極化しており、後者では人件費高騰が企業収益を圧迫している。
- 供給制約の緩和や企業活動の減速を示した今回の結果は、利上げペースの緩和を支持する結果であるものの、賃金上昇が続けば、企業活動が減速する中でもFRBは利上げを続けざるを得ず、景気悪化幅が大きくなる恐れがある。